

広島交響楽団

ザ・シンフォニーホール 大阪公演

平和の夕べ

被爆80周年 *"Music for Peace"*
～ダニール・トリフォノフとともに～

“現世の苦悩から歓喜を経て天上へ”

世界的ピアニストのダニール・トリフォノフを迎え、新たな魅力を
湛えた広響「平和の夕べ」コンサート。

20世紀初頭のほぼ同年に作曲された、ラフマニノフとマーラー
の2作品を対峙させることで、被爆80周年の節目に、世界を
分断する様々な困難を乗り越える「音楽の力」を得てMusic
for Peace(音楽による平和)を世界に発信する。

「指揮」クリスティアン・アルミンク

©Shumpei Ohsugi

© Dario Acosta/DG

【コンサートマスター】北田千尋 【管弦楽】広島交響楽団

【ピアノ】ダニール・トリフォノフ 【ソプラノ】石橋栄実*

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
Rachmaninov: Piano Concerto No.2 in C minor op.18

マーラー:交響曲 第4番 ト長調*
Mahler: Symphony No.4 in G major

当日ホールロビーに「明子さんのピアノ」(被爆ピアノ)を
展示するとともに、開場時には一般応募の方によるピアノ
試奏を行います。(応募は締め切りました)



*昨年アルゲリッチ氏が試奏した様子をYouTubeでご覧いただけます。

2025 **8.7** (木) 19:00開演 (18:00開場) **ザ・シンフォニーホール**

S席一般 11,000円 / S席小・中・高校生 5,500円 A席一般 9,000円 / A席小・中・高校生 4,500円(税込)

ご予約・お問合せ ■ ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333(火曜定休) <https://www.symphonycall.jp>

プレイガイド

■ 広響事務局 082-532-3080(平日9:00～17:20) <http://hirokyo.or.jp> ■ e+ (イープラス) <https://eplus.jp/symphonycall> (パソコン・携帯)
■ ローソンチケット <https://l-tike.com/symphonycall> [Lコード:54135] ■ チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/symphonycall/> [Pコード:289-195]

*未就学児のご入場はご遠慮いただいております。*やむを得ない事情により、出演者、曲目、曲順が変更になる場合がございます。*公演中止・延期の場合を除いて、チケット代金の払い戻しは承りません。予めご了承ください。
*当初予定のプログラムから出演者、曲目の一部が変更となりました。

主催：公益社団法人 広島交響楽協会 / ザ・シンフォニーホール



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
| 独立行政法人日本芸術文化振興会

広島交響楽団が被爆80周年を祈念して開催する「平和のタペ」コンサートがザ・シンフォニーホールでも開催される。当初ソリストにはマリア・ジョアン・ピリスが招かれる予定であったが、軽い脳梗塞を発症、一定の加療と休息が必要との判断で、残念ながら今回の来日が見送られた。そして、新たに楽団がその代役として発表したのが、日本でも圧倒的人気を誇るダニール・トリフォノフである。2024年の来日リサイタルでの素晴らしい演奏が記憶に新しいところだが、オーケストラとのコンチェルトとなると、久しく日本での実演に触れる機会が無かった。しかも彼のピアノズムを表現する上で最も重要なレパートリーであるラフマニノフのピアノ協奏曲第2番を聴けるまと無い機会になることは間違いない。演目としても申し分のない選択である。想豫するにピリスの代役というだけでなく、被爆80周年に平和を発信する広島交響楽団との歴史的共演というところに共感しての出演応諾であったに違いない。後半に演奏されるマーラーの交響曲第4番は当初からの予定演目で、音楽監督のクリスティアン・アルミンクとともに音楽で祈りを捧げる。



[指揮] クリスティアン・アルミンク

ウィーン生まれ。レオポルド・ハーガーや小澤征爾のもとで研鑽を積み、ルツェルン歌劇場の音楽監督などを経て、2003～13年に新日本フィル、2011～19年にベルギー王立リエージュ・フィルの音楽監督として活躍。2017年から広島交響楽団の首席客演指揮者を務め、2024年に同団の音楽監督に就任した。これまでにチェコ・フィル、ベルリン・ドイツ響、フランクフルト放送響、ザルツブルク・モーツァルテウム管、ウィーン響、トゥールーズ・キャピトル国立管、ローマ・サンタ・チェチーリア国立管、ボストン響、N響などに招かれ、オペラではフランクフルトやストラスブールの歌劇場、新日本フィルなどで《ドン・ジョヴァンニ》《サロメ》《ホフマン物語》《フィレンツェの悲劇》などを指揮している。

[ピアノ] ダニール・トリフォノフ



2010年のショパン・コンクール第3位、翌年のチャイコフスキー・コンクールで優勝して以来、超一流の指揮者やオーケストラから引く手あまた、リサイタルや室内楽でも瞬く間に世界で頭角を現した。アルゲリッチは「彼はすべてを、そしてそれ以上の優しさと悪魔的な一面を手に入れている。私はかつて、このような演奏を聴いたことがない」と語る。ラトル、ムーティ、ネゼ＝セガンらの指揮のもと、ウィーン・フィル、コンセルトヘボウ管、フィラデルフィア管などと共演し、ウィグモアホール、ウィーン楽友協会、ベルリン・フィルハーモニー、シャンゼリゼ劇場などでリサイタルを開いている。ドイツ・グラモフォンと専属契約を結んでの数多い録音は、多くの国際的な賞を受賞。

[ソプラノ] 石橋栄実



大阪音楽大学専攻科修了。大阪舞台芸術奨励賞、咲くやこの花賞、他受賞多数。(独)ケムニッツ市立劇場「ヘンゼルとグレーテル」にグレーテル役として招かれて以来、新国立劇場公演をはじめとする数多くのオペラに出演し続けている。また、バッハ「マタイ受難曲」、メンデルスゾーン「エリア」、モーツァルト「戴冠ミサ」「ミサ曲ハ短調」「レクイエム」、ブラームス「ドイツ・レクイエム」、マーラー「交響曲第4番」、ヴェルディ「レクイエム」、ドヴォルザーク「スターバト・マーテル」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」などのソリストとして全国のオーケストラと多数共演。「NHKニューイヤーオペラコンサート」出演。大阪音楽大学教授。

[管弦楽] 広島交響楽団

国際平和文化都市「広島」を拠点に「Music for Peace ～音楽で平和を～」を旗印として活動するプロオーケストラ。2024年よりクリスティアン・アルミンクが音楽監督に、徳永二男がミュージック・アドバイザーに就任。下野竜也が桂冠指揮者を務める他、ウィーン・フィル、コンサートマスターのフォルクハルト・シュトイデをミュージック・パートナーに、細川俊夫をコンポーザー・イン・レジデンスに、マルタ・アルゲリッチを平和音楽大使に迎えている。1963年「広島市民交響楽団」として設立、1970年に「広島交響楽団」へ改称。地域に根差した楽団として「広響」の愛称で親しまれる。2023年には創立60周年を迎えた。



明子さんのピアノ

このピアノは、1926年 アメリカBaldwin社で製造されました。ロサンゼルスで生まれた少女 河本明子さんが愛用していました。1933年(昭和8年)河本源吉・シヅ子さん夫妻と共に広島に移り住みました。1945年(昭和20年)8月6日 原爆投下。学徒動員での作業中に明子さんは被爆し、翌7日夕方19歳の生涯を閉じました。病名は「急性放射能障害」でした。ピアノも爆風により、多くのガラス破片で傷つきました。

2005年(平成17年)8月、調律師 坂井原浩氏によって困難な修復作業によって音色を甦らせました。8月3日 被爆60周年祈念「被爆ピアノ・チャリティーコンサート」が開催されました。以来「明子さんのピアノ」は、あの日の出来事を現在へ伝える貴重な「被爆遺品」として、平和の調べを奏でています。(一般社団法人 HOPE プロジェクト ウェブサイトより)



クリスティアン・アルミンク&広響の演奏やザ・シンフォニーホールでの演奏を一部YouTube(広響チャンネル)でご覧いただけます。

クリスティアン・アルミンク
&広響
ベートーヴェン:
交響曲第7番より



クリスティアン・アルミンク
&広響
ブラームス:
交響曲第4番より



下野竜也&広響
ブルックナー:
交響曲第4番より



フォルクハルト・シュトイデ
&広響
ベートーヴェン:
交響曲第7番

